

### 第3回 双葉町郡山行政区の村祈祷への参加及び地域誌を作成するワークショップの報告

今日は 2025 年 12 月 13 日に開催された第3回 双葉町郡山行政区の地域誌を作成するワークショップの報告です。



#### 福島県双葉郡双葉町 郡山行政区

双葉町郡山行政区は東京電力福島第一原子力発電所から 3km 圏内にある行政区です。震災前は、約 120 世帯が居住しており、除去土壌等の中間貯蔵施設の中に位置しています。

住民の皆様は、先祖代々受け継いできた土地を、除去土壌の中間貯蔵施設とするため、土地提供に同意をされました。郡山行政区の森さんは、「この先 30 年も帰れないのなら、先祖代々受け継ぎ、育んできた土地に、中間貯蔵施設を受け入れることが、土地の有効活用になるのではないかな。それによって、県民はもとより、多くの国民に希望を与えることができるのではないだろうか。『それならきっと、ご先祖様もきっと許してくれる』そう信じて、郡山行政区の住民はみんな、断腸の思いで土地提供に同意したものだと思っています。」と福島環境再生 100 人の記憶で述べています。

森秀樹さんのお話：[https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/pdf/fukushima100\\_090.pdf](https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/pdf/fukushima100_090.pdf)

福岡渉一さんのお話：[https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/pdf/fukushima100\\_077.pdf](https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/pdf/fukushima100_077.pdf)

## 今回の活動

この郡山行政区で、行政区役員と氏子総代さんと連携して、産総研が郡山行政区の記憶誌を作る活動を2025年に開始しました。12月13日には、郡山行政区に位置する正八幡神社での村祈祷、清掃への参加、そして第3回 双葉町郡山行政区の地域誌を作成するワークショップを開催したので報告します。



正八幡神社は木のプロペラでも有名ですね。

<https://www.fcp.or.jp/iseki/column/1081>

## 掃除・村祈祷

朝9時に双葉駅前に集合しました。空気は冷たかったのですが、好天に恵まれました。今回は、産総研だけでなく、学生2名、環境省職員4名、共同通信社などのメディアの方々など総勢10名を超える行政区外メンバーが参加しました。中間貯蔵施設のゲートを通して10分、中間貯蔵施設内に位置する正八幡神社に到着です。現地には、郡山行政区の方々や写真家の小林正明さんが既におられました。

正八幡神社では、東日本大震災以前は祭礼を行っていましたが、震災以後立ち入りが制限をされているため一時中断をしていました。現在は年に一度、初禊神社の宮司さんがいらして、地域の方々の無病息災、家内安全など、今年の感謝と来年の祈願をする村祈禱を行っています。

まず、村祈祷の前に集った郡山行政区の皆さまと神社の周辺や本殿の掃除をし、新しいしめ縄をかけ、新年を迎える準備を行いました。しめ縄は想像以上に重くて、5人がかりの作業となりました。郡山行政区の皆様からは、若手がたくさんいると助かる、とのお言葉も頂きました。

掃除後、氏子総代の福岡渉一さんのご挨拶があり、本堂で宮司の高倉洋尚さんの祈祷が始まりました。本堂での祈祷は、厳かな雰囲気になりました。祈祷後は御神酒を頂き（運転しない人のみ）、今年を無事に過ごせたことに安堵すると共に、来る新年が素晴らしい年となることを皆で祈る、特別な時間となりました。





鳥居へのしめ縄かけ



掃除の間に歓談



鳥居へのしめ縄かけ2



本殿前のしめ縄掛け



清掃後の社殿



村祈祷の様子





御神酒を頂きました（運転しない人のみ）



皆さんの集合写真

清掃の合間に近くの郡山五番遺跡を見学。平安時代の香りを感じました。



### 記憶誌を作成するためのワークショップ

午後は、双葉町の大字誌を作成するためのワークショップです。地域活動拠点 FUTAHOME の 1 階にある FUTAHOME cafe にて、双葉町の住民（11 名）、環境省職員、メディア、産総研メンバー、学生が打ち合わせに参加しました。大きく 2 つのテーブルに分かれ、カフェで用意されたお昼ごはんやケーキを食べながら、約 2 時間、和やかな雰囲気で行われました（FUTAHOME cafe、とても素敵でしたし、美味しかったです。）。

まず、これまでの聞き取り調査で作成されていた「地域の記憶誌」の原案の原稿を参加者にお配りし、構成についての確認を行いました。続いて、原稿の本文を産総研や学生メンバーが交代で音読し、1 ページずつ、内容の真偽の確認や書き方に関する意見交換を行いました。お話を聞く中で、今まで聞いたことがなかったようなお話が語られたり、これはこうだったぞーなどご指摘を頂いたり、□□さんが情報を持っているよ、などの情報を頂いたり、とても有益な議論になりました。

郡山行政区の方からも、楽しいね！、というお言葉を頂きまして、とても嬉しかったです。皆様の笑顔がたくさん見れて、我々もとても幸せでした。昔の写真もたくさんご提供を頂きました。



読み合わせ！



音読している様子

来年 6 月出版目標の「地域の記憶誌」の作成の活動、より一層頑張ります。

参加をいただいた皆さま、ありがとうございました。行政区長の大須賀武雄さん、森秀樹さん、様々なご調整、ありがとうございました。

文責：保高徹生（産総研）

文書作成協力：佐山友香、二宮萌乃、市川南帆、金井裕美子